

日常の授業や校務に生きるIT活用をめざして

小学校

鳥取県三朝町立西小学校 教諭 田中 靖浩

tanakaya@infosakyu.ne.jp

<http://tanapon.net/>

キーワード 小学校, 校務, 授業, IT活用, IT化, 情報教育, プロジェクタ, デジカメ, 携帯電話

概要

学校におけるITの日常活用をめざして行った実践事例をあげ、その効果と、学校のIT化を進めるためのポイントについて述べる。

1 はじめに

ITは、目的を明確に持ち、かつ日常的にザブザブと活用することにより、有効な活用となりうる。それを体感できるような実践を行い、示すことが、IT活用の普及につながると考えている。

2 事例

(1) 学校の日常

1) 玄関掲示

本校の玄関にあるモニターには、その日の予定が、来客向けに表示してある。校内のネットワークを利用して記入、表示させている。

2) 放送システム

放送委員会の児童が毎日流す音楽は、コンピュータを利用している。音楽データなどは、担当者が編集・設定をし、ネットワークを利用して放送室のコンピュータにデータを送っている。

3) WEB学級日誌

教室の日常活動を子どもたちが記録して、他校のクラスにも見える形で情報発信している。これにより、他校とのメールによる交流も行っている。

4) 児童用スタートページ

児童用コンピュータのブラウザのスタートページに、校内WEBの児童用ページを設定している。これにより、児童が学習のためにインターネットを利用することをスムーズに行えるようにしている。指導する教師にとっても使いやすいものを心がけている。

(2) 校務

1) ファイル共有

公務上最も役立つのは、情報の共有である。その第一として、公務に関するファイルの共有があげられます。どの学校にとっても、教職員がネットワークを活用し始めるための第一歩になる。しかし、現実には、これさえ行われていない学校も少なくないのが現状である。本校では、職員専用の領域を設けて、公務文章表に準じたフォルダ構成をとり、活用している。導入3年目になりますが、全職員が利用している。

2) プリンタ共有

職員室には、モノクロレーザープリンタが、児童用のメディア教室にはカラーレーザーとインクジェットプリンタが共有してあり、必要に応じて使い分けている。

3) 職員校務用グループウェア

日々の公務に必要な情報は、グループウェアを利用して共有している。行事予定や提出文書、出張の管理、連絡掲示板などの機能は、手放せなくなっている。職員はこの画面を見て協議したり行動したりしている。職員室の黒板には、緊急性のある事柄だけが書かれている。

(3) 授業 (情報教育)

1) 家の人にアピールする音楽会ポスターを作ろう (総合)

家の人や近所の人に伝えるためのポスター作成。写真や絵の構成とキャッチコピーを考える授業。ペイントソフトで編集。情報スキルとしての伝えるための工夫と同時に、PCスキルの育成もねらう。

2) 三朝町の世界遺産の取り組みをHPで発信しよう (総合)

年間を通して活動した自分たちの主張をホームページにまとめる学習。操作が簡単なシステムを使って、全体の構成、記事の選択、写真の選択、説明文の吟味などができる力を付けることを、ねらいとした。公開したものについて評価してもらうことで、子どもたち自身が情報発信活動を見つめ直すことができた。

(4) 授業（教科や児童活動におけるIT活用）

1) 百マス計算のタイマーとしての利用

当たり前のようにおいてある教室コンピュータの、ネットワークだからこそ、さりげない利用。

2) デジタルコンテンツの活用

様々なデジタルコンテンツがインターネット上に公開されており、教室で利用するとかなり有効である。

(ア) NHKデジタル教材 歴史 理科

(イ) プロジェクタがなくてもテレビに表示

(ウ) ただ見せるのではなくどう使うのかが問題 デジ楽サイトの紹介

3) 英語活動における教材CDの活用

3年生以上のクラスで英語活動学習にCDROM教材を活用し、効果を上げている。児童も先生も楽しく授業できる。教室におけるIT活用の契機ともなる。

4) 高機能移動端末によるユビキタス協調学習システムの活用

(ア) 俳句を作ろう（国語・5年）

4校による共同学習。システムのサーバにカメラ付き携帯で取材した画像をアップし、これをネタにして、俳句を詠む。テレビ会議で、専門家から指導評価を頂く。

(イ) 川探検（理科）

上流から河口までの川の様相を半日かけて取材し、現場から直接サーバにアップ。帰校後、データベースを見ながら、視点に沿って川の様相の特徴を見つける学習。

(ウ) 今日の一枚交流

学校の様子を他校に伝えるために、どんな画像を撮ればよいか、どのように説明すればよいかを考えて、情報発信する。相手への情報発信を意識する学習。

(エ) 修学旅行を通して平和について学び合おう

取材したことをその場で送信、帰校後に振り返り学びを整理する。交流校と学んだことを伝え合い、学び直す。

5) デジカメの活用

(ア) 整備のし方

教室でいつでも使えることが大切。複数台使えることも必要。

(イ) デジカメスピーチ

児童の日常活動に取り入れやすい。ショーアンドテル形式のスピーチの力を高める。

(ウ) 教材の提示 カメラ付き携帯も活用できる。

教科書や資料集の絵、児童の作品やノートなどを、その場で拡大提示することによって、視線を集め、課題を明確に共有した授業ができる。

(エ) 作品の公開 画像掲示板活用交流

作品を簡単に発表・保存でき、感想交流の場としても、活用できる。児童にとっての満足感も大きい。

6) 大型提示装置やタブレットの活用

(ア) 筆順指導（国語・書写）

視線を集めて指導できる。児童自身の書き込みにより、印象深いものになる。

(イ) 教科教材の提示と書き込み（2年生算数・5年生算数）

絵や図を提示するだけでなく、その上に発見や思考過程を書き込むことにより、板書と一体化した学びの足跡となる。

3 まとめ

(1) 児童や教職員がITやネットワークを日常に当たり前に活用することによる効果

- 1) IT活用により、効果的な授業や効率的な校務が可能になり授業のあり方や学校運営の仕方が少し変わる。
- 2) ネットワークの特性を理解し、人との関わり方やメディアの活用について学ぶことができる。

(2) 学校としてIT化を進めるために

- 1) 活用目的の明確化と、様々な事例を職員で共有し活用イメージを広げること。
- 2) 「やっているひとはやっている」で、いいの？ やっていない人が、校内にいたら・・・。
- 3) こんなに簡単に効果的にできるよ。
- 4) 学校体制を作る。行政・管理職・職員への意図的な働きかけが大事。
- 5) ちょっと進んだ事例に学ぶ姿勢を持つ。
- 6) 広域的な実践者、研究者、教育委員会、指導主事の連携。全国的な人的ネットワークを生かす。
- 7) 安心して活用できるネットワークシステムの構築と教室環境の整備（PC・プロジェクタ・タブレット）